

新入生オリエンテーション

SPRING



新入生オリエンテーションの様子



新入生歓迎会の様子



基礎情報処理



大塚教授

内科学



綾部教授

母性看護学



左から：岡村助教、永田助教、田中教授、大内田助教、加藤講師、跡上准教授

老年看護学



松本助教、古村准教授、草場講師

看護学科 教員・事務職員紹介

小児看護学



水落助教、益守教授、藤好講師

精神看護学



福浦講師、舞弓准教授、藤原助教

在宅看護論



渡邊講師、黒田助教

事務職員



今村係員、長田係員、田中係員、高倉係員、山下課長補佐、小河課長

地域看護学



左から：梶准教授、佐藤准教授、重松教授、立石助教、土井助手

基礎看護学



後列左から：中山助教、三次助教
前列左から：加悦准教授、森本教授、河野講師、宮本助教

成人看護学



左から：河原田講師、松永助教、松清准教授、原教授、三橋教授、相明准教授、姫野講師、孫田講師

看護学科通信

はなみずき 第53号

Kurume University School of Nursing

777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan

Tel.0942-31-7714 Fax.0942-31-7715



インド・ミテライラ地方の民族画「スーリヤムッキーの木」

看護学科長 三橋 睦子



「人を幸せにする看護を学ぶ」

26回生の新入生118名の皆さん、ご入学おめでとうございます。平成最後の年(31年)に入学し、5月1日から令和元年を迎えることになり、歴史的にも記憶に残る大学生活の始まりです。

さあ、皆さんには4年間の大学生活に沢山の夢や希望を抱かれています。大いに遊んで、友人と語り、バイトに精を出されることも良いと思いますが、本分は「人を幸せにする看護」を学ぶことです。日本を代表するフェミニストの1人であり、「女性学」や「ジェンダー研究」の第一人者でもある上野千鶴子氏は、東京大学の入学式で「社会に出れば、もっとあからさまな性差別が横行しています」と指摘し、「がんばってもそれが公正に報われない社会があなたたちを待っています」、「がんばったら報われるとあなたがたが思えることそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったこと忘れないようにしてください」と呼びかけ、「あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないで、恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれないひとびとを助けるために使ってください」と続けました。

どうぞ、周りに目を向け、人のためになれるよう、愚直に謙虚に学んでいただきたいと思います。ようこそ久留米大学医学部看護学科へ

教務委員長 森本 紀巳子



「目標達成にむけて着実な学修を！」

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学生活は順調にスタートしましたか。現在、授業では共通・基礎科目、基礎医学の解剖学、基礎看護学が入っておりますが、新しい発見、胸躍らす内容があったでしょうか。大学は基本的には皆さんの勉学や課外活動について、自主性と自由を最大限保障しています。皆さんが活発な学生生活を送られることを願っておりますが、同時に大学は学びの場であることを自覚してください。専門職である看護師は、看護の対象である人間のさまざまな側面を理解したうえで、看護を提供しなければなりません。ですから、看護学の基盤となる知識は重要です。特に1・2年次の科目は、以後の学修に大きく影響します。毎回の授業を無駄にすることなく着実な学修に努めてください。

2019年度 入学式写真



学生委員長 益守 かつき

「素敵で充実した大学生活を！」

平成31年の春の良き日に、菜の花と桜が満開な筑後川のほとりのキャンパスにて大学生として一歩を踏み出した新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。心より歓迎いたします。

皆さまは久留米の地でどのような大学生活を過ごそうと思いついていらっしゃいますか？看護の対象は“生活している人”です。生活のあり様は時代によって変化しています。4年間の学生生活ではキャンパス内だけの学習にとどまらず、学生として、社会人として、生活者として様々なことを経験しましょう。講義や演習、実習など楽なことばかりではないかもしれませんが、経験からの学びは、必ず皆さまを豊かにしてくれることでしょう。皆さまが抱く夢に向かって、充実した学生生活を送れるように、私たち教職員は支援を惜しみません。

「Let's チャレンジ！」

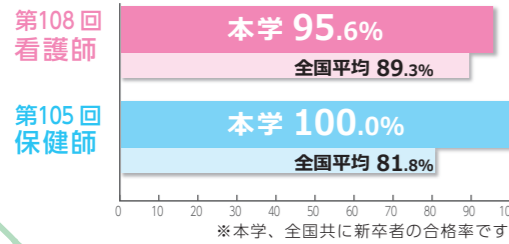
新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。学生だからこそその体験にチャレンジしましょう。充実した学生生活と卒業後の夢を勝ち取るように教職員は精一杯応援します。

1年生担任：益守 かつき(左)
担任補佐：黒田 薫(右)

2019年度 1年生集合写真



2018年度 国家試験成績



オープンキャンパスのご案内

日付 2019年8月10日(土)

時間 12:00～16:00 (11:20～随時受付)

場所 久留米大学旭町キャンパス 医学部看護学科 (医学部医学科とは別棟にあります。)

実施内容

- ・ガイダンス
- ・個別相談
- ・模擬授業
- ・看護の先輩に聞く
- ・看護体験
- ・学生による学科紹介

編集後記

ハナミズキをご覧いただきありがとうございました。今回のハナミズキはいかがでしたか。ハナミズキを通して看護科で行われている様々な行事を知っていただき、充実した大学生活を送れていることを知っていただけたら幸いです。今後もより良いハナミズキをお届けすることができるよう頑張っていきますので皆様のご協力よろしくお願い致します。

2018年度 学科通信委員

2年生 大塚 萌生 久光 茉紘 岡 奈津実

3年生 相浦 里咲 弥永 奈緒 酒井 愛理沙

4年生 富久 奈々 田口 桃子 今村 友莉恵

2018年度 卒業 小山 楓由 斉藤 帆南 高治 桃可





卒業論文発表会

2018年度卒業 E.M・T.N

私たちは「地域で生活する思春期の発達障害児を支援する一施設の困難感」というテーマについて研究発表を行いました。インタビューでは、質の高いデータが得られるか不安もありましたが、自分たちが知りたいことは何かを意識して行いました。また、研究グループで集まることも多かったため、客観的意見を踏まえて研究を進めていくことができました。発表では、他者への伝わりやすさを考えて見やすい図や文字の大きさなどが大事であると学ぶことができました。卒業研究を通して得た学びをこれからは活かしていきたいです。



研究計画合同検討会



卒業研究発表会

看護総合演習

2018年度卒業 M.M

12月に行われた看護総合演習では、膀胱留置カテーテルや気管吸引など臨床実習で経験することが出来なかった技術や採血などの身体侵襲を伴う技術について学ぶことが出来ました。これらの技術は診療に伴う援助技術で学んでいましたが、改めて技術のポイントを復習しながら実践できる機会となりました。特に、学生同士で行う採血は、採血針による身体侵襲を伴うため緊張と不安がありました。しかし、事前に学生同士で採血の手順や注意するポイントなどを確認し、教員の指導のもとシミュレータで練習したため、安全に採血を行うことが出来ました。演習を通して、看護技術の復習とともに、自己の課題を明確にすることが出来たので、これらを臨床の現場につなげたいと思います。



国家試験決起集会

2018年度卒業 S.R

1月9日、看護師国家試験・保健師国家試験を目前に控えた4年生と先生方が集まり決起集会を行いました。決起集会では、国家試験に向けての抱負や、最高のコンディションで国家試験本番を迎えるために気をつけるべきこと、必要な準備事項を看護計画風に観察プラン、ケアプラン、教育プランに分けて決起集会委員が発表しました。その後は研究IIIでお世話になった先生方と交え、ビンゴ大会を楽しみました。この決起集会により、4年生は国家試験本番に向けての意識をさらに高め、看護師・保健師国家試験合格率100%を目指し、残り僅かな時間も最後まで勉強していくことを誓いました。



生活援助実習Ⅰを終えて

2年 K.Y

初めての実習は不安や緊張でいっぱいでしたが、4日間での実習を通して感染防止の重要性や観察力の大切さなど多くのことを学びました。学校での演習とは違い、病院では病状の異なる患者さんに合わせた援助が必要で、基本を応用した援助を見る機会が多かったです。初めて見聞きするものもたくさんあり、すごく勉強になりました。患者さんとのコミュニケーションでは、会話をしていく中で患者さんの目線から見た病院での生活やその中の楽しみなどについて考えることができました。また、患者さんに「話せて楽しかった、ありがとう」と笑顔向けられたときはとても嬉しかったし、元気をもらいました。

今回の実習での学びを大切にして、これからの援助に活かしていきたいです。



戴帽式

2年 W.S

戴帽式を無事に終えることができ、ここまで色々支えて下さった先生方や家族に感謝すると共に、看護師になるという責任の重さを改めて感じました。ご来賓の方々から頂いた祝辞はどれも看護師を目指す上で大変意義深いものでした。ナイチンゲールの灯火から受け取った灯りの中で誓った宣誓の詞をきちんと心に留め、これからある様々な課題や困難、不安を116人の仲間と共に協力して乗り越えられるよう努力したいと思います。まだまだ未熟ですが、患者さんに寄り添うことのできる看護師となるためにより一層勉学に励みたいと思います。



災害訓練に参加して

2年 S.A

私は12月2日に行われた久留米大学病院での災害訓練に参加させていただきました。妊婦役だったため、「妊娠何週目なのか」「歩行は可能かどうか」などの質問に答えました。その後、看護師さんが、患者役の私を気遣いながら、軽症患者のいる緑ブースへと案内して下さいました。緑ブースでは、医療従事者の方々が、混乱している状態の被災者の方に冷静に対応したり、日本語の通じない外国人被災者の方には、英語で対応したりしていました。そのようにして、臨機応変に対応する姿に感激しました。災害において、誰もが不安がある中で医療従事者の対応が患者さんに影響するのだと身を持って理解しました。今回体験できたことを、今後活かしたいと思います。

平成30年度戴帽式 学生の詞

私たちは、常に患者の立場に立ち、不安や苦しみを理解し、少しでも安らぎをもたらすことができるよう努めます。そのために確かな技術を身につけ、幅広い知識を深めていきます。同じ志をもつ116名の仲間とともに支えあい、ともに高めあい、看護の道を歩んでいくことを誓います。



2018年度 戴帽式写真



就職ガイダンスを受けて

4年 S.R

就職ガイダンスでは、最新の就職動向や自己分析の方法、病院の情報収集の方法などについての説明があり、自分がこれからのように就職活動を始めていくべきなのかを理解することができました。

また、就職活動のことだけでなく、保健師や助産師進学についての説明もあり、自分の進路や将来を見つめ直すきっかけとなりました。

自分から積極的に病院について調べてみることや、自分がどんな看護師になりたいのかを明確にして就職活動を行うことが大切であるということも学びました。今のうちから自分と向き合って、なりたい自分を明確にし、就職活動が行えるように準備をして行きたいと思います。



療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)を通して学んだこと

4年 K.M

私は慢性期の実習に入る前、期間が4週間と長いことや対象とする疾患が複雑であることから不安な思いでいっぱいでした。私が受け持たせて頂いた患者さんは、生活習慣の乱れから病気を発症した方でした。患者さんを総合的にアセスメントし、退院後の生活を見据えた教育を一貫して行いました。途中、勉強不足から疾患の関連や必要な社会資源などについて戸惑った部分も多かったです。しかし、担当の先生や看護師の方たちのご指導のもと、看護援助をやり遂げた時はとても達成感を味わうことができました。ひとりの患者さんに真摯に向き合う姿勢を看護師になってからも大切にしたいと思います。



レピーフ活動を通して

4年 T.Y

レピーフ(LEPEEF)とは、「LET's begin PEer Education concerning sexuality From now on!」の頭文字をとって名付けられたボランティアサークルです。意味は「さあ、今から性について一緒に考えよう!」です。私たちは、中学校や高等学校を直接訪問し、性についての正しい知識や、命の大切さについて一緒に学び、考えていくピアエデュケーション活動を行っています。

先日の活動では中学校を訪問し、「好きって何? どういう気持ち? ~自分の気持ちを大切に~」をテーマに、中学生と交流しながら共に学んできました。中学生に会うまでは、「どんな子達なんだろう...」、「どのような話題を振ったら意見を出しやすいかな...」など中学生に会える楽しみと少しの不安や心配がありました。しかし、グループワークを通して交流を深めるにつれて多くの意見が出るようになり、楽しく学ぶことができました。また、中学生らしい反応や考え方に触れ、新しい発見をすることができました。

これからも、レピーフメンバーの一員として、楽しく学び合えるように責任を持ち積極的に活動していきたいと思っています。



実習で学んだ多職種連携の大切さ

3年 M.N



生活援助実習Ⅱを終えて、「医療とは連携である」と考えるようになりました。私が受け持った患者さんは、本人の強い希望により退院が決まった方でした。退院が急遽決まったにもかかわらず、看護師の方々は、医師だけでなく、理学療法士や作業療法士などの多職種と連携し、家に手すりや設置されているか、退院後のリハビリについてなど退院に向けた支援を行っていました。病院で行われた連携は、ソーシャルワーカーを通じて地域へと連携され、患者さんの退院してからの生活を支えていくことを学びました。この輪の中に自分も少しでも携わることができたと思うと、とても実のある実習だったと思います。

生活援助実習Ⅱを終えて

3年 I.H

私は昨年の12月に2週間の臨床実習を経験しました。実習はとても有意義で、充実した時間を過ごすことができました。それと同時に、自分の知識・技術不足を痛感しました。事前学習をした上で臨んだつもりでしたが、いざ患者さんに援助を行うと、患者さんの疾患や病態に合わせて看護を提供することがとても難しく、戸惑うことばかりでした。

そのため、1・2年生で受講した講義資料をもう一度見直し、しっかりと身につけていきたいと考えました。今回の実習で学んだことを専門実習に生かせるように、日々の学習に励み、患者さんひとりひとりに合った看護を提供できる看護師になれるよう、頑張っていきたいです。



平成最後のあोक祭

3年 S.A

私は、平成30年度あोक祭の看護学科実行委員長を務めさせていただきました。今年は、なんと久留米大学の創立90周年という節目の年でした。そのような素晴らしい年に、そして伝統あるあोक祭に、実行委員長として関わったことを光栄に思います。あोक祭までの期間中は、準備に多くの時間を要し、身体的にも精神的にも辛い時がありました。そんな時、周りの友達や先生方が励ましてくれたり、先生方が声をかけて下さったおかげで、体調も崩さず、講義も休むことなく両立させることが出来ました。

今回のメインテーマである「PUZZLE」のように、それぞれの個性が集まり、私たちにしか創れないあोक祭に出来たのではないかと思います。この経験を通して、改めて仲間と共に努力する大切さを学びました。看護の学びを深めつつ、今しかできない友達との思い出をつくっていきましょう。

